

魚沼市教育振興会小学校理科部活動報告

平成23年11月29日

小出小学校 佐藤 吉宏

1 活動計画

4月21日	第1回部会	昨年度活動の反省と活動計画の検討
8月5日	第2回部会	地層見学場所観察学習会（地区理セン研）
8月23日	第3回部会	新教育課程研究集会伝達並びに授業づくり研修

2 活動の実際

(1) 第1回部会

今年度、活動の中心に「言語活動の充実」を置き、それぞれが授業実践したことをレポートにして持ち寄り、授業づくりについて協議することにした。また、昨年度に引き続き地区理科センターの研修会を活用し、地層見学についての見識を高めるために実際の露頭観察を行うことにした。

(2) 第2回部会（露頭観察会）

小千谷市東栄地区（JR小千谷駅近く）にある露頭の観察と山本山山頂から見る小千谷周辺の地形観察を行った。理科センター職員による露頭の特徴とそれに関連させた山本山からの地形観察は地層見学の必要性や指導内容の理解を深めることに役立った。また、初心者のための「ねじりがま」の使い方や注意点など、学習の実際場面が必要な指導についても研修ができた。参加者の中には現地で見学の日程について露頭の土地所有者に早速お願いをする姿も見られ、内容だけでなく授業運営面での支援にもなっていた。



〈小千谷市東栄の露頭〉

(3) 第3回部会

前半に新教育課程研究集会に参加した入広瀬小学校 山之内 久 教諭が伝達講習を行った。教科書ページと授業時数の増加、「教え、考えさせる」授業、「言語活動の充実」等を中心に伝達が行われた。特に新しい評価の趣旨について「表現」が科学的思考とつないで表されている点について説明がなされた。加えて、考察する目的でのグラフ化は「思考・表現」であり、結果の整理だけの目的であれば「技能」となる等、目的に照らして観点をもつことの大切について実際の单元にかかわって触れられていた。また、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすることを充実させることの必要性についても確認が行われた。

後半は部員各自が持ち寄ったレポートの検討を通して「言語活動の充実」について協議を進めた。ノート指導や観察カード、図に言葉を加えて書き込む活動が工夫されていた。特に「理科の言葉」としてノートに朱書きさせる活動や図と言葉で行う説明活動から実験・観察への意欲化を図る等、科学的な思考と言語の結び付けを積極的に考えた実践は参加者にとってよい刺激となった。今後も子どもたちの科学的思考の向上を目指し、実際の授業実践と結んだ「言語活動の充実」について研修を進めたいと考える。

3 成果と課題

【成果】

○地層見学は、現地でどういう視点での指導が可能なのか確かめておくことが重要である。その意味で研修はよい機会となった。今後も現地視察や学習会を企画し、地域素材の教材化を図っていく。

【課題】

○「言語活動の充実」は今後も授業実践を通した研修の場で、具体的な方策を学び合うことを進めたい。科学的な思考の力を高めることが課題である。理科部員はもとより理科授業担当者への働きかけを進めていくことも考えたい。